

6. 今後の住まい方の意向

(1) 居住継続の意向

全県、圏域別

現在の住まいに住み続けたいとする世帯(「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」の合計)の割合は、全県で 65.5%である。

圏域別にみると、柳井地域、萩地域、岩国地域では継続的な居住意向が強く、長門地域、山口・防府地域では低くなっている。

(表 - 49)

住宅タイプ別

住宅タイプ別にみると、現在の住まいに住み続けたいという意向が最も多いのは持家の「一戸建・長屋建」で、82.3%が住み続けたいとしている。これに対して、持家でも「共同住宅」では 56.0%となっていて、「一戸建・長屋建」の持家における継続的な居住意向が強いことがわかる。借家では「都道府県・市区町村営賃貸住宅」で 52.8%、「民営賃貸住宅(一戸建・長屋建)」で 36.3%と高いほかは、現在の住まいに住み続けたいとする世帯の割合は、1割～2割程度である。

(表 - 50)

家族型別

家族型別にみると、現在の住まいに住み続けたいという意向が最も多いのは、「単身(75歳以上)」で、88.3%の世帯が住み続けたいとしている。次いで、「夫婦のみ(家計を主に支えるものが65歳以上)」の 87.2%、「三世代世帯」84.0%、「複合世帯」80.8%、「単身(65歳～74歳)」80.5%、「親と子(長子25歳以上)」75.4%となっている。

現在の住まいに住み続けたいという世帯の割合が低いのは、「単身(35歳未満)」の 22.6%、「親と子(長子5歳以下)」の 27.3%である。

(表 - 51)

(2) 住まいの所有関係、建て方、新築・中古の区分、立地条件に関する意向

全県、圏域別

今後住み替えるとしたら、「持家」がよいと考える世帯の割合は全体で 64.8%である。圏域別にみると、長門地域(76.9%)、萩地域(73.2%)、柳井地域(71.1%)で「持家」がよいとする割合が高い。

住宅の建て方についてみると、全体の 65.2%が「一戸建住宅」がよいとしている。圏域別にみると、長門地域(80.5%)、萩地域(79.5%)、柳井地域(73.5%)で「一戸建住宅」がよいとする割合が高い。「共同住宅(マンション等)」がよいとする割合は、下関地域で最も高くなっている。

新築・中古の別についてみると、「新築住宅」がよいとする世帯が全体の 54.8%と最も多いが、「特にこだわらない」とするものも 33.6%いる。圏域別にみると、萩地域(65.3%)、柳井地域(60.3%)、長門地域(59.8%)では「新築住宅」がよいとする割合が高

い。また、下関地域では「特にこだわらない」も45.8%と高い。

立地についてみると、全体では「郊外」がよいと考える世帯が31.3%と最も多く、次いで「特にこだわらない」が28.8%、「街なかや都市の中心部」がよいとする世帯が16.3%である。圏域別にみると、長門地域、柳井地域、下関地域、岩国地域では「特にこだわらない」が最も多くなっている。

(図 - 21)(図 - 22) (表 - 52)

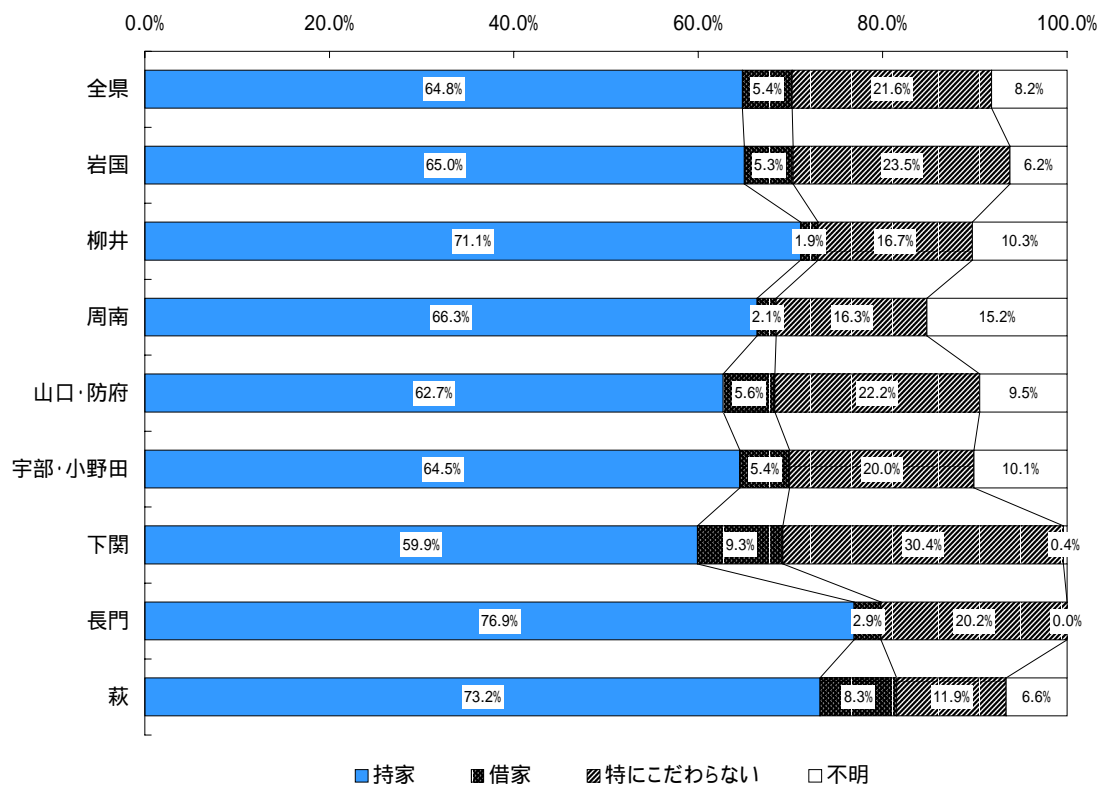


図 - 21 住まいに関する意向（所有関係）〔山口県〕

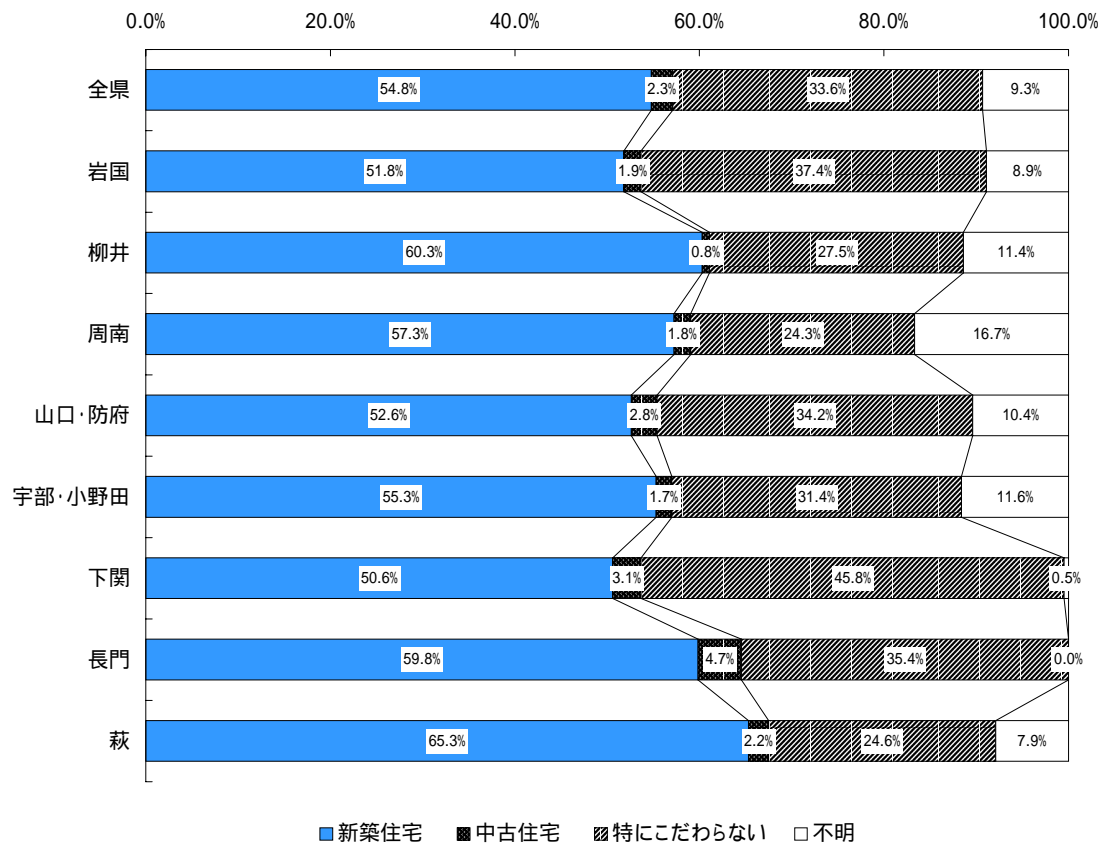


図 - 22 住まいに関する意向（新築・中古の区分）〔山口県〕

住宅タイプ別

ほとんどの住宅タイプにおいて、今後住み替えるとした場合の住宅の所有関係は、「持家」がよいと考える割合が最も多い。ただし、借家世帯においては、「民営賃貸住宅(共同住宅・木造)」で「特にこだわらない」が最も多いなど、「持家」と「特にこだわらない」の差は比較的小さい。

住宅の建て方については、「民営賃貸住宅(共同住宅・木造)」で「特にこだわらない」が最も多い他は、「一戸建住宅」がよいとするものが最も多い。

新築・中古の別についてみると、現在「持家」に居住している世帯と「給与住宅」に居住している世帯では「新築住宅」がよいとするものが多いが、その他の借家世帯では「特にこだわらない」とするものが多い。

立地についてみると、「持家(一戸建・長屋建)」では「郊外」がよいと考える世帯が多く、「持家(共同住宅)」では「街なかや都市の中心部」がよいと考える世帯が多い。借家世帯では、住宅タイプによらず「特にこだわらない」が最も多い。

(表 - 53)

家族型別

家族型別に今後住み替えるとした場合の住宅の所有関係についてみると、「単身(35歳未満)」では「特にこだわらない」が最も多い。他の家族型では「持家」が最も多い。

住宅の建て方についてみると、「単身(35歳未満)」では「特にこだわらない」が最も多く、次いで「共同住宅(マンション等)」となっている。他の家族型では「一戸建住宅」が最も多い。

新築・中古の別についてみると、「単身」世帯では概して「特にこだわらない」とするものが多いが、その他の家族型では「新築住宅」がよいと考える世帯が最も多い。

立地についてみると、「郊外」がよいと考える家族型と「特にこだわらない」家族型とに大きく二分されている。

(表 - 54)

(3) 住まいにおいて重視する点

全県、圏域別

住まいについて重視する点(複数回答)としてあげる世帯が多い項目は、「日常の買い物、医療、福祉施設文化施設等の利便」、「高齢者等への配慮(段差がない等)」、「住宅の広さ・間取り」である。圏域別にみると、岩国地域、柳井地域、周南地域、宇部・小野田地域、下関地域では、「日常の買い物、医療、福祉施設文化施設等の利便」が最も多く、山口・防府地域、長門地域では「住宅の広さ・間取り」、萩地域では「高齢者等への配慮(段差がない等)」が最も多い。

(図 - 23) (表 - 55)

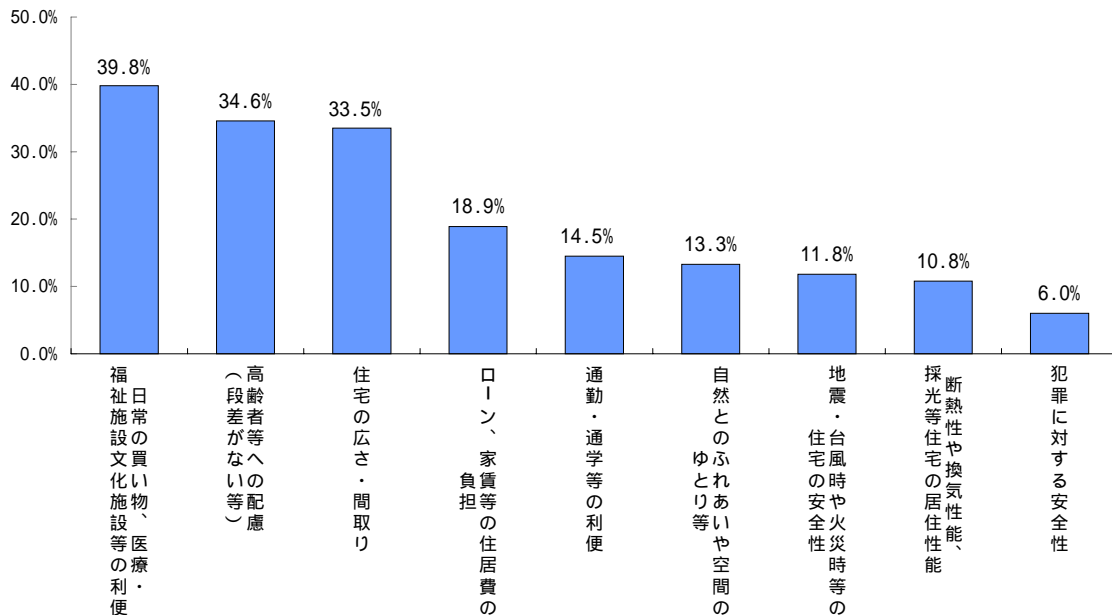


図 - 23 住まいにおいて重視する点〔山口県全体〕

住宅タイプ別

住宅タイプ別にみると、持家全体では「高齢者等への配慮(段差がないなど)」が最も多くなっているが、「持家(共同住宅)」では「日常の買い物、医療、福祉施設文化施設等の利便」が最も多い。借家では「住宅の広さ、間取り」が最も多い。

(表 - 56)

家族型別

家族型別にみると、「住宅の広さ・間取り」を重視するものが最も多いのは「親と子(長子 5 歳以下)」、「親と子(長子 6 歳～11 歳)」、「親と子(長子 12 歳～17 歳)」、「三世帯世帯」、「その他」である。「日常の買い物、医療、福祉施設文化施設等の利便」を重視するものが最も多いのは、「単身(35 歳～64 歳)」、「単身(65 歳～74 歳)」、「夫婦のみ(家計を主に支えるものが 65 歳未満)」、「親と子(長子 18 歳～24 歳)」である。「高齢者等への配慮(段差がないなど)」を重視するものが最も多いのは、「単身(75 歳以上)」、「夫婦のみ(家計を主に支えるものが 65 歳以上)」、「親と子(長子 25 歳以上)」、「複合世帯」である。

(表 - 57)